


海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	近藤 彰宏 
所属機関	国立がん研究センター東病院 大腸外科 レジデント
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	American Society of Colon and Rectal Surgeons --- Nashville, 2018
渡航期間	自 2018/5/18 至 2018/5/25
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	大腸肛門外科に関する学会参加、研究発表
<p>研究成果 (要約: 800字)</p> <p>今回、2018/5/19-2018/5/23 に開催された American Society of Colon and Rectal Surgeons --- Nashville, 2018 に参加した。私は、「Impact of preoperative chemotherapy on distal spread of low rectal cancer located close to the anus」のタイトルで 2018/5/21 にポスター発表を行った。内容は、低位の進行直腸癌に対し術前化学療法を施行することで、肉眼的な腫瘍が不明瞭化して腫瘍辺縁がわかりにくくなるものの、粘膜下層以深では腫瘍細胞がはって存在することが多く (distal spread)、distal margin を適切に確保する上で非常に重要な因子となる、というものである。また distal spread には、低分化型腺癌や化学療法治療後の内視鏡および MRI 検査での治療効果判定の不一致が有意な因子であることも、重要な結果の一つであった。発表後、欧米の外科医からも、内容に関する意見や質問をいただき、今後の研究を考慮する上で非常に有意義な場となった。</p> <p>また、本学会は、大腸肛門外科学に関して、アメリカを中心に世界中から外科医が参加する学会である。外科手術に関しては、特にロボット支援下大腸癌手術や taTME (transanal Total Mesorectal Excision) について多くの研究発表を聴講した。日本と比較してロボット支援下手術の施行割合の圧倒的な症例数を含めて世界の現状について多くのことを学ぶことができた。欧米人の体型を考慮すると腹腔鏡下手術では非常に困難な症例も多く、ロボット支援下手術のメリットが大きく発揮されるようであった。taTME は日本ではまだ少数の施設で施行されているのみであるが、欧米では大規模な臨床試験も開始される可能性があり、日本と比してより新しい内容への研究が多いように感じた。また、進行直腸癌に対する集学的治療として術前化学放射線療法が標準治療である欧米の中で、さらなる治療成績向上のための治療戦略についての研究発表を聴講し、日本との違いについて様々なことを学ぶことができた。</p>	